

令和2年度 磐田市立向笠小学校 学校評価書

重点	目標・取組	評価指標	自己評価	考察・改善策	学校関係者評価委員から
進んで学びに向かう力の育成	<p><探究活動の重視></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習計画を自ら考え、ともに探究を進め、子どもたち同士で学びを調整する授業 ・プログラミング教育の実施 ・日課表の工夫(補充発展学習の時間を確保) <p><体育・音楽・学級づくりにおける外部講師の招聘></p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動や歌唱、友達同士で問題解決するための学び <p><読書活動の充実></p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭での「読書デー」を設定 ・Fタイムにおける読み聞かせや本の紹介等の活動 <p><子どもたちがじっくり取り組める時間の確保></p> <ul style="list-style-type: none"> ・60分(45分+15分)授業の設定 	めあてをもって、進んで学習に取り組んでいる。(80%)	A	<p>○中間評価と比べて、児童と保護者は、「友達の考えを聴いて、話し合いながら学びを深められている。」の項目について児童93.1→94.4%、保護者82.7→88.9%と伸びがみられる。子どもが対話活動のある授業に取り組んだり、子ども自身が友達の考えを聞くことに価値を見出したりできているためと思われる。「当該学年の学習内容を理解している」において、保護者の肯定値は高まっているが、子どもと教師は中間評価よりやや下降傾向がみられる。「めあてをもって学習している」「友達の考えをよく聞き話し合いながら学びを進める」の項目は、今年度新たに評価項目に加えたものであり、授業改善を進めるうえでめざす子どもの姿である。課題として、職員は「子どもたちが授業の内容が分かったか振り返って、次の課題を見付けている」と捉えている割合が64.8%から78.6%と伸びているが、児童と保護者は、成果として実感できていないことが挙げられる。対話活動や体験活動を楽しんで学んでいるが、まだまだ受け身の姿がみられる。今後も継続していく必要があると考える。</p> <p>※次年度は、異学年集団による学び合いの場を設定する。また、二人の教員で2学年を指導・支援できる仕組みをつくり、タブレット端末の有効活用を取り入れた授業改善を行い、主体的に学ぶ姿を追求する。</p>	<p>・子どもたちが学校に行けない危機感を感じながらスタートした1年であったが、学校再開後は、学校に行ける喜びや授業を受ける楽しさを感じられるようになった。ひとえに職員の熱量の多さに感激した。日々子どもたちにどのような力を付けさせるのか考え、運動会などの行事も「やれるんだ」という喜びを実感できた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ファミリー活動(異学年での活動)はぜひ継続して欲しい。 ・授業でも、異学年同士の教え合いや学び合いを深めて欲しい。とりわけ道徳において、ともに学ぶ機会が増えるといい。 ・ホームページが大変分かりやすくいつも読んでいます。終業式の話等がよかった。 ・ファミリーウォークラリーは、中学のボランティアや地域とのつながりも深まるので、ずっと続くといい。 ・授業に一体感が感じられる。楽しく学ぶ姿がいい。めあてが具体的に何を学ぶのか明確で皆が集中して取り組んでいた。 ・現在、交流センターに6年生が向笠地区各所のよさをPRしたポスターを掲示してあり問合せも多い。今後も絵画や書道をぜひ展示していただきたい。
	<p><体育・音楽・学級づくりにおける外部講師の招聘></p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動や歌唱、友達同士で問題解決するための学び <p><読書活動の充実></p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭での「読書デー」を設定 	友達の考えをよく聴き、話し合いながら学びを深めている。(80%)	A		
	<p><子どもたちがじっくり取り組める時間の確保></p> <ul style="list-style-type: none"> ・60分(45分+15分)授業の設定 	授業の内容が分かったか振り返り、次への課題を見付けている。(80%)	B		
高め合う力の育成	<p><異学年交流の機会の充実></p> <ul style="list-style-type: none"> ・週2回のFタイムの設定 ・子ども主体となる活動の企画・運営 <p><行事をつないで目指す子どもの姿を実現></p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの思いを生かした企画・運営(行事のPDCAサイクル化) ・「自分から」「自分たちで」「みんなのために」「最後まで頑張る」という合言葉の活用 <p><食農体験の充実></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科との関連性を重視 ・地域貢献の視点 	異学年交流・F活動に進んで取り組んでいる。(90%)	A	<p>○異学年交流を柱に取り組んだ運動会やファミリーウォークラリー等の行事では大きな成果を上げることができた。評価項目「ファミリー活動に取り組んでいる。」では、児童96.3%保護者97.4%職員100%と高評価を得ている。週2回のFタイムが定着してきたことにより、子ども主体となる活動を楽しむことができた。読書週間におけるファミリーでの本の紹介や持久走月間におけるファミリーでの準備体操も、ファミリーグループの絆を強めた。また「自分の役割を考え、みんなのために行動している」項目は、児童93.2%保護者89.5%職員85.9%であり、中間報告より児童と職員で若干低くなったものの、今までよりも「さらに役割を考えていきたい、考えてほしい」という思いの表れではないかと考える。</p> <p>※異学年交流の機会をさらに充実し、心のつながりを強める。さらに行事を異学年交流の機会ととらえ、一本の線をつなぎ、めざす子どもの姿の実現の充実を図る。具体的には春にFウォークラリーで所属感と今後の取組の見通しを秋に運動会を実施しファミリーの絆を深めるとともに体育学習の発表の場とする。</p>	
	<p><行事をつないで目指す子どもの姿を実現></p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの思いを生かした企画・運営(行事のPDCAサイクル化) 	自分の役割を考え、みんなのために行動している。(80%)	A		
	<p><食農体験の充実></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科との関連性を重視 ・地域貢献の視点 	自分の決めためあてに向かって、最後までやり抜くことができる。(80%)	A		

学校関係者評価を受けてのまとめ

コロナ禍の中、あきらめることなく可能な限り子どもたちに学びの場を保障し続けた姿勢が保護者・地域ともに学校への満足感につながっていると感じた。「学校が楽しい」「子どものことを理解して指導にあたっている」について、三者とも中間評価を上回り、大幅に回復している。さらに、「教育活動に満足している」についても保護者・教師とともに中間評価を上回ることができた。「向笠小の目指そうとしている子どもたちの姿や教育内容について知っている」と答える保護者の割合も上がってきている。成果の大きかった異学年交流の活動を学びの場でも推進していこうとする次年度の取組についても評価を得ることができた。GIGAスクール構想をはじめ、大きな変革の時期に当たるため、「子どもたちの育ちの環境づくりにとって本当に必要なものは何か」を問い続け、見直しを図り、深い子ども理解のために子どもと一緒にいる時間を大事にしたいとの思いを強くした。